

2019年度 小委員会活動成果報告

(2020年2月19日作成)

小委員会名	集落復興小委員会	主査名：鈴木孝男 就任年月：2018年4月
所属本委員会 (所属運営委員会)	農村計画委員会	委員長名：山崎寿一
設置期間	2018年4月 ～ 2022年3月	
設置目的 各年度活動計画 (箇条書き)	<ul style="list-style-type: none"> ・被災集落・地域における被害実態・復興過程を記録検証する。 ・被災集落・地域における居住地の復興計画、集落施設の再建、生業や住宅を含む社会的再建のあり方を議論し提言する。 ・被災集落・地域における復興計画を支援する。 初年度：災害に強い集落の調査研究と情報収集を行う。研究集会を企画実施。 2年度：被災集落等の調査研究、研究集会の企画実施。 3年度：被災集落等の調査研究、研究集会の企画実施。 4年度：補足的に被災集落等の調査研究の実施と研究集会の企画実施。	
委員構成 (委員名(所属))	委員公募の有無：有	
	主査：鈴木孝男(新潟食料農業大学) 幹事：菊池義浩(兵庫県立大学大学院)、友淵貴之(宮城大学) 委員：岡田知子(西日本工業大学)、山崎寿一(神戸大学)、後藤隆太郎(佐賀大学)、田中暁子(後藤・安田記念東京都市研究所)、浅井秀子(鳥取大学)、佐藤栄治(宇都宮大学)、澤田雅浩(兵庫県立大学大学院)、三笠友洋(西日本工業大学)、本塚智貴(明石工業高等専門学校)、下田元毅(大阪大学大学院)	
設置WG (WG名：目的)		
2019年度予算	150,000円	ホームページ公開の有無：無 委員会HPアドレス：

項 目	自己評価
委員会開催数	3回(年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会承認企画	
大会研究集会	1. 研究協議会：ポスト巨大災害復興期の持続的・包括的計画パラダイム ―地域と生活目線からみた新時代・令和の計画論(集落の包括再編モデル小委員会と共同)『農村計画部門研究協議会資料：同上』 参加者数 68名
対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	1. 研究協議会の実施し、巨大災害を契機としながらも次の時代を導く農村計画論のあり方について、「地域の生活目線」を原則とする集落復興の展望を導く議論を展開することができ、多くの知見を整理・発信することができた。 2. 小委員会活動の蓄積を社会発信するために、「災害としなやかに付き合う知恵(仮題)」をテーマとした雑誌連載を企画している。 以上、当初の計画から若干の遅れはあるものの、概ね目標を達成している。
委員会活動の問題点・課題	1. 事例踏査のための予算確保 2. 調査担当者の負担増、委員の日程調整の困難さなど